

令和2年11月18日

令和6年度（第39回）国民文化祭の開催地内定について

令和6年度（第39回）国民文化祭の開催地を、岐阜県に内定いたしますのでお知らせします。岐阜県は、平成11年度開催（第14回）以来、2回目の開催となります。なお、内定書は、下記日程で宮田文化庁長官から岐阜県知事に手交します。

1. 国民文化祭の概要

国民文化祭は、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策と有機的に連携しつつ、地域の文化資源等の特色を生かした文化の祭典であり、各種の文化活動を全国規模で発表、共演、交流する場を提供するとともに、文化により生み出される様々な価値を文化の継承、発展及び創造に活用し、一層の芸術文化の振興に寄与するものです。

2. 開催県の内定について

国民文化祭の開催地については、開催希望のあった地方公共団体のうちから、文化庁長官が決定することになっています。令和6年度開催について岐阜県から要望があり、今般、内定を行うことになりました。

3. 内定書交付式

日 時：令和2年11月18日（水）14：00
場 所：文化庁長官室
出席予定者：古田 肇（ふるた はじめ）岐阜県知事

＜担当＞文化庁参事官（芸術文化担当）付
学校芸術教育室
室 長 根来 恭子
文化活動振興係長 武富 雄一郎
電話：03-5253-4111（代表）内線 2832

「第39回国民文化祭・ぎふ2024（仮称）」について

基本的な考え方

- 岐阜県は、古来、山紫水明の自然に恵まれ、世界に誇る伝統と文化を育んできました。豊かな森を源とする「清流」は、県内をあまねく流れ、里や街を潤し、飛騨の木工芸、美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器など匠の技を磨くとともに、千有余年の歴史を誇る鵜飼などの伝統文化を育み、新たな未来を創造する源になっています。
- 本県では、1999年（平成11年）に第14回国民文化祭を開催し、残された様々なレガシーを活かしつつ、「清流の国ぎふ」づくりを掲げて、「岐阜の地歌舞伎」や「関ヶ原古戦場」などの地域資源を磨き上げ、その魅力を活かしたまちづくりや、内外の観光キャンペーンへの活用、さらに、「清流長良川の鮎」や「本美濃紙」、「山・鉾・屋台行事（高山祭、古川祭、大垣祭）」などの世界遺産の獲得などに努力してきました。
- 2024年（令和6年）は、前回大会から四半世紀を迎える節目であり、同年には「全国高等学校総合文化祭」が本県で開催されるなど、これまでの取組みの集大成として、本県が誇る地域資源やそれを支える県民の取組みを国内外へさらに広く発信する絶好の機会であります。
- 一方で、現在のコロナ禍で様々な文化芸術活動が制約され、停滞を続けるという厳しい状況にあります。こうした中でも、文化芸術の灯を守り続け、将来に向けて希望と活力に満ちた地域づくり、人づくりの種を蒔き、育てていく必要があります。
- 「国民文化祭」の開催に向けてオール岐阜で取り組むことで、県民の文化芸術活動を継続・発展させるとともに、新たな交流によって新たな本県文化の魅力を見出し、アフター・コロナ時代の創造に繋げてまいります。

開催時期

令和6年 秋（予定）

参 考

国民文化祭の開催実績及び開催県の内定状況

回	年度	開催地	回	年度	開催地	回	年度	開催地
第1回	S61	東京都	第14回	H11	岐阜県	第27回	H24	徳島県(2)
第2回	S62	熊本県	第15回	H12	広島県	第28回	H25	山梨県
第3回	S63	兵庫県	第16回	H13	群馬県	第29回	H26	秋田県
第4回	H1	埼玉県	第17回	H14	鳥取県	第30回	H27	鹿児島県
第5回	H2	愛媛県	第18回	H15	山形県	第31回	H28	愛知県
第6回	H3	千葉県	第19回	H16	福岡県	第32回	H29	奈良県
第7回	H4	石川県	第20回	H17	福井県	第33回	H30	大分県(2)
第8回	H5	岩手県	第21回	H18	山口県	第34回	R1	新潟県
第9回	H6	三重県	第22回	H19	徳島県	第35回	R2	宮崎県
第10回	H7	栃木県	第23回	H20	茨城県	第36回	R3	和歌山県
第11回	H8	富山県	第24回	H21	静岡県	第37回	R4	沖縄県
第12回	H9	香川県	第25回	H22	岡山県	第38回	R5	石川県(2)
第13回	H10	大分県	第26回	H23	京都府	第39回	R6	岐阜県(2)

（今回内定）